

令和 7 年度

比較文化学類の各領域とコースについて

—コンセプト・履修モデル・人材育成目標—

付. コンピテンスとその達成度評価

----- 比較文化学類の 1 主専攻 2 領域 6 領域 17 コース -----

比較文化主専攻

○地域文化研究領域

日本・アジア領域

日本文学コース
日本研究コース
中国文学コース
アジア研究コース

英米・ヨーロッパ領域

英語圏文学・文化コース
ドイツ語圏文学・文化コース
フランス語圏文学・文化コース
欧米研究コース

フィールド文化領域

文化人類学コース
文化地理学コース

○超域文化研究領域

表現文化領域

テキスト文化学コース
文化創造論コース
One-Planet Relational Studies in Literature and Culture コース

(ワンプラネット文学・文化関係学コース)

文化科学領域

先端文化学コース
情報文化学コース

思想文化領域

現代思想コース
比較宗教コース

《 地域文化研究領野 》

日本・アジア領域

1. 日本・アジア領域のコンセプト

日本とアジアにおける文化の諸相を文学・歴史・宗教・社会などに着目しながら体系的に学びます。

2. 日本・アジア領域の履修にあたってのガイド

日本とアジアについて専門的・多元的・複眼的にまなぶためのカリキュラムを領域として整えていますので、それぞれの関心にしたがって、領域・コースで開講されている授業を組み合わせ受講してください。必要に応じて他領域や他学類・学群の授業も積極的に活用することを期待します。

3. 日本・アジア領域の人材育成目標

現代の世界を考える上で、アジアの占める位置は確実に大きくかつ重要になっています。現代社会が多くの困難を抱える状況にあって、日本とアジアが育み培ってきた叡智は、どのような役割を担い得るでしょうか。こうした課題に専門的・多面的に取り組む解決するための、知識と能力を持つ人間を育成します。

* * *

◆ 日本文学コース

【日本文学コースのコンセプト】

日本の作家、文学作品を対象として、実証的な研究を行い、その時代の人のありかたや思想・理想を通して、人間の文化的営みについて探究していきます。

【日本文学コースの履修モデル】

本コースは、段階的に文学に関する経験値を上げ、研究する主体を育成していくことを意識したカリキュラムを用意しています。国語教職免許取得のための、必修(★)もしくは選択(☆)の科目も多く兼ねています。

1 年次 「日本・アジア領域比較文化研究」では日本古典文学および近現代文学の研究態度について学びます。

「日本文学概論」(★)では日本文学を全体的に見通すための知識と観点を学びます。

2～3 年次 「日本文学史」(★)では自分の研究対象を文学史のなかで位置づける態度を身につけます。

「日本文学講読」(☆)(複数開講)のなかから、関心がある時代の作家や作品を取り上げている授業を選んで受講します。作品の精読を通して、読解能力を高めていきます。

「日本文学演習」(☆)(複数開講)は、3 年次以降に受講します。自分で調査し、考察した内容を発表することによって、研究の主体を獲得していきます。

「日本文学特講Ⅰ」「同Ⅱ」(☆)は、文学と文化事象との関係についてとりあげる応用的授業です。

「日本・アジア領域専門導入基礎演習Ⅰ&Ⅱ」(2年次)、「日本・アジア領域卒業論文基礎演習Ⅰ&Ⅱ」(3年次)を通して、自身の問題意識を卒業論文のテーマとして明確にしていきます。

4 年次 「卒業論文」は学生生活の集大成として取り組み、完成させるものです。4 年次では卒業論文演習、卒業論文を履修し指導教員のアドバイスを参考にしながら、実際の調査・研究を進めていきます。

*** 日本文学にすでに関心がある 1 年生へ ***

1 年生対象の授業以外にも、実践の基礎となる「日本文学講読」にチャレンジしてみてください（ただし演習は 3 年次以降の受講を推奨します）。そのほか、興味や関心にしたがって日本・アジア領域の他コースの授業や、他領域の授業を受講してください。たとえば古典文学研究を目指すなら、中国文学や日本・アジアの歴史や宗教、芸術について。近現代文学研究を目指すなら、古典の知識はもちろんのこと、外国の文学や、対象によってはジャーナリズムや近現代芸術について学ぶ必要があるでしょう。好奇心をもって他学類の授業も視野に入れてみてください。

【日本文学コースの人材育成目標】

自ら研究対象を定め、実証的に論証する知識と技能を身につけたスペシャリストを育成します。文学ということばの繊細かつ強靱な営みを基盤として、人文学における知の問題を深く意識できる社会人、国語科教員、研究者を育てることを目標とします。

◆ 日本研究コース

【日本研究コースのコンセプト】

日本列島に住む人々の文化・現代社会の諸問題を、個別の地域に生きた人々の歴史・生活・政治・思想・宗教などに着目し、多元的・複眼的な視点から学びます。

【日本研究コースの履修モデル】

日本研究コースでは、政治・社会経済に偏らず、生活文化・地域を題材としています。日本列島に展開した農山漁村および都市の生活を日常の場から探ることにより、地域に根ざしたライフスタイルやそれに関連する諸問題を発見して研究していきます。

1 年次ではその基礎として専門導入科目「日本・アジア領域比較文化研究」「日本研究概論 I・II」(II → I の順で履修可。また 2 年次でも履修可能)、2 年次では「日本・アジア領域専門導入基礎演習 II」を履修します。

また、2～4 年次には、専門性を高めるために、地域史研究の基礎を学ぶ「日本研究特論」、当コースの柱である 3 つの主題から学ぶ「日本の政治と社会」「日本の生活と文化」「日本の宗教と社会」、事例研究・応用研究を学ぶ「日本研究講義」「日本研究 I～IV」などの講義科目を履修し、専門の知識を身につけ、研究手法への理解を深めます。

さらに 2～4 年次には、学生自らが主体的に調査や発表、議論する授業である「日本研究演習 I～X」「日本研究実験実習 I～VI」を履修します。当コースではとくに、学生と教員とが親しく、また真剣に向き合う演習・実習を重視しています。当コースを希望する学生には、2 年次からの演習・実習の計画的な履修を勧めます。

卒業研究については、3 年次の「日本・アジア領域卒業論文基礎演習 I・II」により卒業論文執筆に向けての課題・研究計画を練り上げ、4 年次では、「卒業論文演習」により指導を受けながら卒業論文を執筆し、完成させます。

卒業には上記以外にも専門科目・専門基礎科目・関連科目の履修が必要になりますが、各自の関心に応じ、また、視野を広げるように自他領域・他学類から選択履修することを薦めています。実際に学生が履修している授業科目の開設学類等の例は以下の通りです。

アジアの中の日本：アジア研究コース、中国文学コース。思想文化領域 現代思想コース。

日本と欧米の比較：英米・ヨーロッパ領域、超域文化研究分野。国際総合学類。各種の外国語科目

日本史・基層文化：日本文学コース。人文学類(日本史・歴史地理学・民俗学・文化人類学・考古学)。日本語・日本文化学類。人間学群。

地域調査：フィールド文化領域、文化科学領域 情報文化学コース。人文学類(歴史地理学・民俗学・文化人類学)。社会学類(社会学)。地球学類(地球環境学)。社会工学類(都市計画)。

美術：表現文化領域、文化科学領域 先端文化学コース。芸術専門学群。

思想・宗教・信仰：フィールド文化領域、文化科学領域、思想科学領域。人文学類(哲学・倫理学・宗教学)。芸術専門学群。

【日本研究コースの人材育成目標】

日本研究コースは、日本列島に住む人々の生活文化と社会を個別的な地域に生きた人々の問題として把握できる人材の育成を目的としています。具体的には、歴史・生活・政治・宗教・思想・教育・文化などの考察を通じて、地域に住む人々の生活文化・社会の全体を、それぞれの生活文化・社会と比較しつつ多元的・複眼的に捉え、国際的・民族的にも流動的な現代社会に対応できる、問題解決力のある学生の育成を目指しています。進路には、中学校(社会)・高等学校(地理歴史・公民)教員、公務員、一般企業のほか、研究者・高度専門職業人を志しての大学院への進学があげられ、卒業生は国内・国外、各分野で活躍しています。

◆ 中国文学コース

【中国文学コースのコンセプト】

中国の古典作品を対象とします。中国古典文学を深く読み解くためには、文学作品だけではなく歴史書や思想書を参照する必要があることを学びます。言葉に対する繊細な感覚を養い、文化に対する理解を深め、文学とは何かを考え、それを必要とする人間について考えるきっかけとします。

【中国文学コースの履修モデル】

概説的な性質の授業は中国文学概論から中国文学史へ、具体的な読解に関わる授業は中国文学講読から中国文学演習へ、という流れが基本となります。中国文学講読演習は何年次に履修してもいいように設定されています。

- 1 年次 中国文学概論、中国文学講読演習
- 2 年次 中国文学史、中国文学講読、中国文学講読演習
- 3 年次 中国文学講読、中国文学演習
- 4 年次 中国文学演習

標準履修年次について、中国文学概論は 1・2 年、中国文学史と中国文学講読は 2・3 年、中国文学演習は 3・4 年、中国文学講読演習は 1・2・3・4 年に設定されています。上の履修モデルを参考に、適宜入れ替えをして履修計画をたててください。その際、中国文学講読・中国文学演習・中国文学講読演習については、それぞれ I と II の 2 科目あり、西暦奇数年に I、偶数年に II が開講されますので、注意してください。

以上が、中国文学コース履修の核となります。これに 1 年次の日本・アジア領域比較文化研究、2 年次の日本・アジア領域専門導入基礎演習を加え、さらに、中国学全般、あるいは文学に関連する科目を加えていきます。初修外国語として中国語を選択したり、他コースの概論科目や講読・演習を履修したり。さらに、思想文化領域など、他領域の科目にも目を向けます。

各自の興味と開設科目を照らし合わせ、4 年間の見通しをたてて 1 年次の履修科目を決め、その後は最初の計画を修正しつつ履修し、3 年次には日本・アジア領域卒業論文基礎演習で卒業論文の準備を本格的に

始め、4 年次には卒業論文演習、卒業論文を履修していい卒業論文に仕上げてください。

【中国文学コースの人材育成目標】

中国の古典作品を深く読み解こうとすると様々な困難にぶつかります。解決の為の模索は苦しくもありますが、私たちが深い人間理解に導いてくれます。理解不能と感ずることと排除することとを直結しない思考力を鍛えると同時に、必要な情報を選び取る判断力を身につけた人材の育成を目指します。

◆ アジア研究コース

【アジア研究コースのコンセプト】

中国、韓国朝鮮、東南アジア、インドを中心とした南アジア、チベットを含む内陸アジア等を対象地域として、アジアの文化、民族、宗教、政治、社会について学びます。歴史的現代的な問題意識により、アジア文化に対する多元的な理解と分析の能力を養います。

【アジア研究コースの履修モデル】

基本的な学年ごとの流れとしては、1 年次では日本・アジア領域比較文化研究、アジア研究概論、2 年次では日本・アジア領域の専門導入基礎演習を履修します。以上によりアジア研究の基礎を学びます。2 年次から 3 年次の間に、場合により 4 年次においても、各人の希望に沿って、アジアの民族と文化 I、II のほかに、かならず重点的選択的に以下の演習科目のいずれかからできるだけ多くを履修し学習を深化させるように希望します。すなわちアジアの政治と社会演習 I~IV、アジア文化資料研究演習 I~IVです。3 年次に日本・アジア領域の卒業論文基礎演習により卒論準備をします。4 年次は主として卒業論文演習と卒業論文を履修して卒論作成となります。以上がコースにおける学びの骨格となる履修の基本です。

上記以外に幅を広げるためヒントになる履修上の考え方をいくつか述べます。これがすべてではなく、各人で工夫することを希望します。

1. 全般的に 1~2 年次に比較文化学類、人文学類の科目から宗教学、歴史に関する科目を多めに履修することを勧めます。歴史については中国史概説などを履修。
2. 中国語、韓国語、その他インド古典語、チベット語などの語学の中から関心に応じて選び、積極的に履修。韓国朝鮮に興味ある方は CEGLOC の韓国語科目（基礎韓国語、韓国語圏の言語と文化、応用韓国語講読・会話）を履修。
3. 日本がアジアに位置しており、アジアの中の日本、日本の中のアジアが常態化していることに関心があれば、同一領域の日本研究コースの日本の生活と文化等を履修。
4. フィールドワークに関心があれば、比較文化学類の中の日本研究コース、文化人類学コース、文化地理学コースのいずれかの実習、実験実習の科目を履修。
5. 中国文化に関心があれば、同一領域の中国文学コースの講義や演習の科目を合わせて履修。人文学類の中国史の科目を履修。
6. 東南アジアに関心があれば、英語の能力をいろいろな科目で鍛えることを勧めます。
7. インドを中心とした南アジア、チベットを含む内陸アジアの文化や宗教に関心があれば比較文化学類の比較宗教、人文学類の宗教学、東洋思想、東洋史に係る科目を履修。
8. 大学院のアジアに関わる科目、語学などを履修して、規定範囲内で卒業単位に含めることも選択肢になります。

【アジア研究コースの人材育成目標】

アジアの多様な現実を、現地の人々の立場に立って、現地の人々の現在の生活、歴史的背景、価値観を共有共感しながら、深く理解できる人材を養成することを目指します。語学力を鍛錬しつつ直接的に情報を獲得できる能力を持ち、アジアの歴史と現在における文化、民族、宗教、政治、社会等についての体系的な知識を備え、自己の見識と積極性を基盤にして、広くかつ深くアジアの文化を探究できる人材の育成につとめます。

英米・ヨーロッパ領域

1. 英米・ヨーロッパ領域のコンセプト

英米・ヨーロッパ領域では、学生各自の選択した地域・言語域の文学・文化・歴史を研究し、優れた外国語コミュニケーション能力と、異なる文化に対する理解力、そしてグローバルな視座から自文化を省察する能力を身につけます。

2. 英米・ヨーロッパ領域の履修にあたってのガイド

今日のグローバル化する社会にふさわしい語学力を、ぜひ身につけましょう。各自にふさわしい到達目標をたてて、留学も視野に入れつつ、効果的な履修プランを作ってください。また専攻する地域・言語域以外の文学・文化・歴史も横断的に学ぶことは、文化に対する広い視野とより深い理解のために不可欠です。

3. 英米・ヨーロッパ領域の人材育成目標

古典古代から現代に至る欧米の人類の精神的遺産を継承するとともに、現代的な問題意識に触発された学際的な学びを推奨します。以下の4つのコースにおける少人数の綿密な卒業論文指導体制のもとに、学生各自の選択した地域・言語域を研究し、優れた外国語コミュニケーション能力と、異なる文化に対する理解力、そしてグローバルな視座から自文化を省察する能力を身につけます。これを通じ、グローバル化し絶え間なく変化する時代にあって、文化間の相互理解と文化交流においてリーダーシップを担いうる人材を育成します。

* * *

◆ 英語圏文学・文化コース

【英語圏文学・文化コースのコンセプト】

このコースでは、充実した英語力を養いつつ、英語圏（アメリカ、イギリス、カナダなど）の文学と文化についての理解を深めます。伝統的な英米文学研究とともに、英語圏の文学理論・文化理論を踏まえた、ジェンダー論、人種論、メディア研究、映画研究なども奨励されます。

このコースでは「アメリカ文学履修モデル」「イギリス文学履修モデル」「カルチュラル・スタディーズ履修モデル」「TOEFL550 (iBT80) 履修モデル」を示し、4年間のあいだに体系的な知識・技能をしっかりと身につけることができるようサポートします。

【英語圏文学・文化コースの履修モデル】

■ アメリカ文学履修モデル

- 1年次 CEGLOC 開設共通外国語、英語圏文学論 I・II・III、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究、欧米研究概論、テキスト文化概論
- 2年次 英語自由科目 (CEGLOC)、英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習、専門英語 I-A・I-B、英語圏文学・文化研究、アメリカ文化特講、カナダ文化特講、欧米文化論、TOEFL Practice (CEGLOC)
- 3年次 専門英語 II、英語圏文学・文化研究、アメリカ文化特講、ジェンダー研究特講、欧米文化論演習、英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習
- 4年次 卒業論文演習、卒業論文、英語圏文学・文化演習、英語圏文学・文化研究

■ イギリス文学履修モデル

- 1年次 CEGLOC 開設共通外国語、英語圏文学論 I・II・III、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究、欧米研究概論、テキスト文化概論
- 2年次 英語自由科目(CEGLOC)、英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習、専門英語 I-A・I-B、英語圏文学・文化研究、イギリス文化特講、カナダ文化特講、欧米文化論、TOEFL Practice(CEGLOC)
- 3年次 専門英語 II、英語圏文学・文化演習、イギリス文化特講、英語圏文学・文化研究、ジェンダー研究特講、欧米文化論演習、英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習
- 4年次 卒業論文演習、卒業論文、英語圏文学・文化演習、英語圏文学・文化研究

■ TOEFL550(iBT80)履修モデル

交換留学を視野に入れて、共通外国語、専門外国語を系統的に履修するとともに、2・3年次で3分の一の履修科目を英語による授業とする履修モデル

- 1年次 CEGLOC 開設共通外国語、英語圏文学論 I・II・III、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究、テキスト文化概論、Introduction to One-Planet Relational Studies in Literature and Culture、比較文化国際研修オリエンテーション
- 2年次 英語自由科目(CEGLOC)、英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習、専門英語 I-A・I-B、英語圏文学・文化研究、カナダ文化特講、One-Planet Relational Studies in Literature and Culture (lecture)、TOEFL Practice(CEGLOC)、比較文化国際研修
- 3年次 専門英語 II、TOEFL Academic English(CEGLOC)、英語圏文学・文化研究、ジェンダー研究特講、One-Planet Relational Studies in Literature and Culture (seminar)、交換留学、英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習
- 4年次 卒業論文演習、卒業論文、英語圏文学・文化演習、英語圏文学・文化研究

■ カルチュラル・スタディーズ履修モデル

英語圏の文学理論・文化理論をベースとして、ジェンダー論、メディア論、人種・エスニシティー論を体系的・学際的に学ぶ履修モデル

- 1年次 CEGLOC 開設共通外国語、英語圏文学論 I・II・III、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究、表現文化領域比較文化研究、文化創造論概論、テキスト文化概論、情報文化概論
- 2年次 英語自由科目(CEGLOC)、英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習、専門英語 I-A・I-B、アメリカ文化特講、イギリス文化特講、カナダ文化特講、TOEFL Practice(CEGLOC)
- 3年次 専門英語 II、ジェンダー研究特講、英語圏文学・文化演習、テキスト文化研究、テキスト文化演習、文化創造論研究、音楽文化論演習、表象芸術論研究、英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習
- 4年次 卒業論文演習、卒業論文、英語圏文学・文化演習、英語圏文学・文化研究

【英語圏文学・文化コースの人材育成目的】

本コースでは、英語圏文学研究のなかで培われた理論とテキスト分析の手法を身につけるとともに、これを英語圏の文学作品のみならず、視覚芸術や音楽芸術、さらには社会・文化現象などにも積極果敢に応用します。これを通じ、優れた文化洞察力に裏づけられた、高い水準における英語のコミュニケーション能力を身につけることを目指します。英語を通じた留学生との交流、ならびに英語圏への留学を推奨し、文化間の相互理解と文化交流においてリーダーシップを担いうる「外向き」志向の人材を育成します。

◆ ドイツ語圏文学・文化コース

【ドイツ語圏文学・文化コースのコンセプト】

本コースでは、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の文学・思想・演劇・音楽・映画・身体文化などを取り上げ、必要に応じてその背後の社会的・歴史的・政治的・思想的文脈も押さえながら研究します。その際に中核となるのはドイツ語の力です。ドイツ語は大学で初めて学ぶ人が大半ですが、卒業時までには十分な力がつくはずで、日本とよく似た、しかし異質なドイツの文化や社会に鋭く切り込み、またドイツという異文化の目から日本を見直す視点も学べます。言うまでもなくドイツは豊かな文化を持った国です。狭い意味での文芸・芸術だけでなく、アクチュアルな諸問題にも関心を広げ、現代社会を理解していく知的基盤を形成しましょう。

コース外の学生も、ドイツ語圏の大学に留学して学ぶ制度を利用できるチャンスが他大学に例がないほどよく整備されていますので、ぜひ利用してください。

【ドイツ語圏文学・文化コースの履修モデル】

1～2 年次対象に「ドイツ語圏文学・文化概論」、2～4年次対象には「ドイツ語圏文学・文化演習」、「ドイツ語圏文学・文化論」、「ドイツ語翻訳演習」が開講されます。

また、比較文化学類長の指定により、文化科学領域先端文化学コースに開設される専門科目である「先端文化学研究 IX(AC64A81)」「先端文化学研究 X(AC64A91)」「先端文化学研究 XI(AC64B01)」「先端文化学演習 XI(AC64C52)」が、本領域・コースの専門科目として扱われます。

※2025 年度中に、ドイツ語圏文学・文化コースに関する「比較文化学類長が各領域の専門科目として指定する科目」が変更される可能性があるため、学類の掲示板等に注意すること。

1 年次

- ・英米・ヨーロッパ領域比較文化研究、ドイツ語圏文学・文化概論、英語圏文学論 I, II, III、フランス語圏文学・文化概論、欧米研究概論、テキスト文化学概論、先端文化学概論を中心に
- ・ドイツ語に関して：ドイツ語基礎 AI, AII, BI, BII [CEGLOC]
- ・その他、自分の関心のある科目を適宜選択

2 年次

- ・英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習 I, II、ドイツ語圏文学・文化論 I, II、ドイツ語翻訳演習 I, II、先端文化学研究 X, XI を中心に
- ・ドイツ語に関して：専門ドイツ語、ドイツ語圏の言語と文化 A, B、応用ドイツ語講読、作文、会話 [CEGLOC]
※2年次の春学期には、「専門ドイツ語」と「ドイツ語圏の言語と文化 A」の両方を履修すること
- ・その他、自分の研究テーマに関係する科目や関心のある科目を適宜選択

3 年次

- ・英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習 I, II、ドイツ語圏文学・文化演習 I, II、先端文化学演習 XI を中心に
 - ・ドイツ語に関して：応用ドイツ語講読、作文、会話 [CEGLOC]
 - ・その他、自分の研究テーマに関係する科目を適宜選択
- *卒業に必要な単位に注意すること。

4 年次

卒業論文演習、卒業論文

【ドイツ語圏文学・文化コースの人材育成目標】

本コースでは、ドイツ語力を備え、ドイツ語圏文学・文化に関する専門知識を深めた人材を養成することを目標としています。

ドイツ語圏の文化を学ぶことにより、ヨーロッパの文化や社会に関する幅広い知識を身につけ、また異文化と接することで自文化を相対化できる柔軟な思考力を備えた人材を育てます。言語学習を通して、ドイツ語圏の豊かな文化や歴史や現代社会の様子を学び、異文化理解をめぐる思考を学び、異文化を通して日本を見直す見方を学んでいきましょう。

異文化とのコミュニケーション力を伸ばす上でも、思考力・反省力を育む上でも、ドイツ語力は大切です。できればドイツの協定校への留学も積極的に考えましょう。ともすると日本は英語さえできれば国際化ができるかのような誤解が流布していますが、これからは、英語以外の複数言語も使いこなせる知的な人材が求められています。そうした中でドイツ語は、統一ヨーロッパ(とりわけ中・東欧)での学習者数が急増しているヨーロッパで最も重要な言語の一つですから、言語とコンテンツを同時に学びましょう。

卒業論文は、ドイツ語圏に関わるものであれば、さまざまな選択肢の中から希望するテーマについて自由に研究することができます。卒業後の進路は、教員や公務員、メディアや出版社などさまざまに考えられます。一般の企業でも、英語力の他にドイツ語力を生かして活躍している人はたくさんいます。もちろん大学院進学という進路もあり、関心次第で、筑波大学の中だけでも人文学学位プログラムをはじめ、さまざまな選択肢が考えられます。

◆ フランス語圏文学・文化コース

【フランス語圏文学・文化コースのコンセプト】

本コースではフランス語の読解・運用能力を高めつつ、フランス語圏の文学・文化について歴史的・社会的視点を交えて体系的に学ぶことを目的とします。欧米文化全体に多大な影響を与えたフランス文学、また言語文化の多様性を尊重するフランス語圏文化に接することで、比較文化的視野を広げることを目指します。

【フランス語圏文学・文化コースの履修モデル】

1 年次 (1) まずは、

基礎フランス語 AI, AII, BI, BII [CEGLOC]

英米・ヨーロッパ領域比較文化研究

フランス語圏文学・文化概論 I

(2) 各自の興味・関心に応じて、

英語圏文学論 I, II, III

ドイツ語圏文学・文化概論

欧米研究概論

テキスト文化学概論

文化創造論概論 など

2 年次 (1) まずは、

英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習 I, II

フランス語圏の言語と文化 A, B [CEGLOC]

応用フランス語講読 A, B、作文 A, B、会話 A, B [CEGLOC]

専門フランス語

フランス語圏文学・文化講読 I, II, III, IV

(2) 各自の興味・関心に応じて、

欧米文化論 IX, X

文化創造論研究 II, III, IV, VI

文化創造論演習 I, IV, V, VI

音楽文化論演習 I

先端文化学演習 I, II など

その他、比較文化学類には多くの授業が開設されています。自身の興味に応じて履修してください。卒業のためには演習科目の単位が必要になることもお忘れなく。

(3) フランス語学留学

海外語学研修 フランス語 [CEGLOC 開設の有無は年度による]

3 年次 (1) まずは、

英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習 I, II

応用フランス語講読 A, B、作文 A, B、会話 A, B [CEGLOC]

フランス語圏文学・文化講読 I, II, III, IV

(2) 2 年次の(2)に加えて、

音楽文化論研究 I

先端文化学研究 V, VI など

その他、比較文化学類には多くの授業が開設されています。自身の興味に応じて履修してください。卒業のためには演習科目の単位が必要になることもお忘れなく。

(3) フランス語学留学

海外語学研修 フランス語 [CEGLOC 開設の有無は年度による]

4 年次

卒業論文演習

卒業論文

【フランス語圏文学・文化コースの人材育成目標】

本コースではフランス語の運用能力とフランス語圏言語文化に関する広い知識と理解を身につけ、論理的思考能力と共に繊細な感性を備えた、社会人としても研究者としても活躍できる人材を育成することを目標とします。

◆ 欧米研究コース

【欧米研究コースのコンセプト】

欧米の文化は、現代世界の基盤であり、近代日本のモデルともなってきました。しかしそれは単純一律なグローバル基準ではなく、多様な文化伝承、多様な歴史、それぞれの利害をもつ国の集合です。欧米研究コースには、地中海を巡る古代/中世の文化圏、大航海時代に世界中に拡大したスペイン文化圏、ヨーロッパの東からアジアに到達したロシア文化圏、太平洋を巡って広がった英米文化圏、また近現代欧米の芸術文化などを専門とする教員が所属しており、大きな歴史的発展を動的に考えようとしています。それは、現代における経済面その他の急速な変化を理解することにもつながっています。

【欧米研究コースの履修モデル】

■ アメリカ研究：

- 1 年次は英語、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究。
- 2 年次には英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習、専門外国語(英語)、人文学類西洋史の概説の授業、欧米研究概論。
- 2～3 年次に欧米文化論 VII、VIII。
- 3 年次に英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習
- 3～4 年次に欧米文化論演習 VII、BIII。
- 4 年次に卒業論文演習、卒業論文
- 大学間交流協定がある英語圏の大学への留学や語学研修も視野に入れてください。

■ スペイン研究：

- 1 年次 基礎スペイン語(CEGLOC)。
- 1-2 年次 欧米研究概論、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究。他に、歴史研究に興味があれば、ヨーロッパ史概説(人文学類)。
- 2 年次 英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習、スペイン語圏の言語と文化(CEGLOC)、専門スペイン語。
- 2-3 年次 欧米文化論 I、欧米文化論 II。他に、帝国時代(近世)に興味があれば、欧米文化論 IX、欧米文化論 X など。
- 3 年次 英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習。
- 3-4 年次 英米・ヨーロッパ領域特講 V・VI、応用スペイン語(CEGLOC)、欧米文化論演習 I、欧米文化論演習 II。
- 4 年次 卒業論文演習、卒業論文。
- サラマンカ大学への留学も視野に入れて下さい。

■ ラテンアメリカ研究：

- 1 年次 基礎スペイン語(CEGLOC)。
- 1-2 年次 欧米研究概論、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究、他に、歴史研究に興味があれば、ヨーロッパ史概説(人文学類)。
- 2 年次 英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習、スペイン語圏の言語と文化(CEGLOC)、専門スペイン語。
- 2-3 年次 植民地時代に興味があれば、欧米文化論 I、欧米文化論 II、欧米文化論 IX、欧米文化論 X など。近現代に興味があれば、欧米文化論 VII、欧米文化論 VIII など。
- 3 年次 英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習。
- 3-4 年次 英米・ヨーロッパ領域特講 V・VI、応用スペイン語(CEGLOC)。他に、植民地時代に興味があれば、欧米文化論演習 I、欧米文化論演習 II。現代に興味があれば、欧米文化論演習 VII、欧米文化論演習 VIII、ラテンアメリカの環境と社会(国際総合学類)など。
- 4 年次 卒業論文演習、卒業論文。
- 大学間交流協定があるラテンアメリカの大学への留学、もしくは ASIP(地域研究イノベーション学位プログラム)への参加も視野に入れてください。

■ ロシア研究：

- 1 年次に基礎ロシア語(CEGLOC)、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究。

2 年次に英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習、専門外国語(ロシア語)、人文学類露語関係授業、欧米研究概論。

2～3 年次に欧米文化論 III・IV、ロシア語作文。

3 年次に英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習。

3～4 年次に欧米文化論演習 III・IV。

4 年次に卒業論文演習、卒業論文。

比較文化学類ではヨーロッパロシアの歴史と文学が学べます。他番号の欧米文化論・欧米文化論演習も併せて履修することでヨーロッパ史として学ぶことができます。中央アジアなどロシア語圏諸国の歴史と文化、言語政策、比較言語などに興味のある人には人文学類に関連する科目がありますので相談してください。

大学間交流協定があるロシア語圏の大学への留学(春・夏期 3 週間／1 年間)も視野に入れてください。

■ 西洋古典研究・西洋宗教文化史研究・イタリア研究：

1 年次にラテン語の初級、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究。

2 年次にギリシア語の初級、英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習。春に英米・ヨーロッパ領域特講 IV，秋に同 II。

2～3 年次に欧米文化論 IX および X。

3 年次にラテン語の中級、英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習。春に英米・ヨーロッパ領域特講 III，秋に同 I。

3～4 年次に欧米文化論演習 IX および X。

4 年次にギリシア語の中級、卒業論文演習、卒業論文。

■ 印欧語比較言語学研究：

1 年次にラテン語の初級、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究。

2 年次にギリシア語の初級、英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習。春に英米・ヨーロッパ領域特講 IV，秋に同 II。

2～3 年次にインド古典語の初級。

3 年次に英米・ヨーロッパ領域卒業論文基礎演習。

3 年次春に英米・ヨーロッパ領域特講 III，秋に同 I。

3～4 年次にインド古典語の中級。

4 年次に卒業論文演習、卒業論文。

【欧米研究コースの人材育成目標】

現代世界の基盤となっている欧米文化について、その歴史的背景から深く理解した上で、現代における経済面その他の急速な変化にも主体的に対応し、日本と世界の将来に向けて有意義な提言を行うことのできる人材を育成します。英語力の養成だけでなく、欧米の文化が多様であることを踏まえ、各国それぞれの文化伝承を尊重しうる語学力の陶冶を目指します。また社会科および英語科に対応する教職科目を設置し、優れた教員の育成に力を注ぎます。

フィールド文化領域

1. フィールド文化領域のコンセプト

日本・世界における地域文化の多様性をフィールドワークによって明らかにし、人間と場所のかかわりを通して「人間とは何か」を体系的に学びます。

2. フィールド文化領域の履修にあたってのガイド

フィールド文化領域では、地理学、文化人類学、民俗学、地域研究における、フィールドワークを中心とした研究の視角や手法の習得を通じて、文化研究の基本的な手法を身に付け、それを卒業論文に反映させる事を目指します。各領域の概論や講義によって専門分野に関する知識を身に付けると同時に、演習の受講を通じて、自ら研究課題を発見し、それを解決する能力を磨きます。また、各コースで開講する実習を積極的に履修することにより、フィールドワークの手法を実践的に身につける事ができます。

3. フィールド文化領域の人材育成目標

文化研究の一つの手段として、地理学的・文化人類学・民俗学的・地域研究的なものの見方・考え方・スキルを修得する事により、自律的に問題を発見して解決する能力を備え、コミュニケーション能力の優れた、広く社会で活躍できる人材を養成することを目的とします。

* * *

◆ 文化人類学コース

【文化人類学コースのコンセプト】

文化人類学・民俗学・地域研究・歴史学の研究伝統を踏まえ、フィールドワークを中心にした諸方法によって人間の営みに参与し、文化や歴史の多様性と普遍性について理解したうえで「人間とは何か」を深く考えることをコースコンセプトとします。

【文化人類学コースの履修モデル】

1 年次：1 年次には、文化人類学・民俗学・地域研究(中東・中央ユーラシア、東南アジア・オセアニア)・歴史学の基礎的知識や基本的な考え方を習得する必要があります。フィールド文化領域比較文化研究や、文化人類学概論、民俗学概論その他の概論科目を履修し、文化の多様性とその比較研究に関して学習を進め、学問を深めるための基礎体力を養います。さらに学びを深めるには、人文学類開設の文化人類学や民俗学の概説、民俗学・考古学入門なども役立つでしょう。

2 年次：2 年次にはフィールド文化領域専門導入基礎演習を履修します。文化人類学研究、民俗学研究、中東・中央アジア文化研究、東南アジア・オセアニア文化研究の受講により、専門的知識を高めて行きます。また文化人類学研究演習・民俗学研究演習の受講により文献を読み込む力を高めたうえで、自らの思考をプレゼンテーションし、他者に理解してもらう能力を養います。2 年次からは実習授業に参加することも出来ます。実習によって文化人類学・民俗学方法論に基づくフィールドワークを経験し、学生個人が自ら課題を発見し、問題系を構築する能力や、フィールドワークを通じたコミュニケーションの能力を養います。また、それぞれの関心領域に応じて、講義および演習を履修し、専門的知識と方法論、多角的な視点を習得して行きます。

民俗学の場合、比較文化学類においては文化地理学・日本研究・比較宗教学などが近接領域で

す。アジアの民俗に関心があればアジア研究関係の授業を受講するのも良いでしょう。また、人文学類では民俗学の講義や演習が数多く開講されています。その受講も大いに役立ちます。その他、例えば「観光」について考えたい場合は、上記のほか、国際総合学類の都市工学に関わる授業も役立つはずです。メディアに表現される「妖怪」に関心があれば情報文化学や先端文化学の授業も参考になるでしょう。

文化人類学の場合、文化地理学や比較宗教学、情報文化学などが近接領域です。他学類では人文学類の文化人類学関連の授業や、社会学類の授業も勉強になると思います。テーマによっては、日本・アジア領域や英米・ヨーロッパ領域などの特定の地域に関わる授業、あるいは先端文化学や、芸術専門学群の授業も役立つと思います。

地域研究(中東・中央ユーラシア、東南アジア・オセアニア)や歴史学の場合、比較文化学類では比較宗教学やアジア研究、欧米研究などが近接領域です。他学類では人文学類の歴史学関連の授業や、特定の地域に焦点を当てた国際総合学類の授業も役立つはずです。また世界とのつながりの中である特定の地域を見る視座を獲得するために、比較文化学類、人文学類等で開設されているグローバル・ヒストリー関連科目の履修もおすすめします。

3 年次：専門科目に関しては2 年次と同様です。自分の学修や留学等の計画のなかで無理のない形で履修してください。それに加え、3 年次ではフィールド文化領域卒業論文基礎演習において、指導教員やコース教員と相談しながら卒業論文のテーマを考え、実習指導を踏まえて、卒業論文作成に向けての方法論を考え、それに対応する文献収集と講読、フィールドの設定とフィールドワークの実践を進めます。フィールドワークにはそれなりの時間が必要ですので、就職活動のことも考えると、3 年次のうちに卒業論文の準備を計画的に進めておくことをお勧めします。

筑波大学の文化人類学・民俗学研究室は東京教育大からの民俗学研究室、30 年近くに及ぶ民族学研究室のからの伝統(通称民・民コース)を受け継いでいます。他学類でも人類学や民俗学の科目が数多く開講されていますので、大学院の受験を考える方は、積極的に演習などを受講して専門に関する知識と技能を積極的に高めて下さい。

4 年次：卒業論文演習で教員のアドバイスを受けつつ、個別の文献研究およびフィールドワークに専念し、これまでの知識を統合して卒業論文を仕上げます。

- 1 年次 フィールド文化領域比較文化研究
 - 文化人類学概論
 - 民俗学概論
 - 文化地理学概論
- 2 年次 フィールド文化領域専門導入基礎演習 I
 - 文化人類学研究 I~III
 - 民俗学研究 I~III
 - 文化人類学研究演習 I~IX
 - 民俗学研究演習 I~V
 - 文化人類学実習 I、II
 - 民俗学実習 I、II
 - 中東・中央アジア文化研究 I~III
 - 東南アジア・オセアニア文化研究 I~III
 - 文化地理学・比較宗教・日本研究等の関係科目

	人文学類文化人類学・民俗学関係科目(自由科目として)
3 年次	上記に加え フィールド文化領域卒業論文基礎演習 I、II
4 年次	卒業論文演習 卒業論文

【文化人類学コースの人材育成目標】

文化人類学・民俗学の方法論に基づくフィールドワークを実践的に指導し、文献研究と組み合わせて考察する経験を通して、自律的に問題を発見して解決する能力を備え、コミュニケーション能力の優れた、社会に貢献できる人材を育成する事を目標とします。上記のような能力を生かして一般企業やメディア、行政組織、教育機関、NGO等の団体で活躍する社会人のほか、文化人類学・民俗学・地域研究(中東・中央ユーラシア、東南アジア・オセアニア)・歴史学の研究者(海外で活躍できる研究者を含む)や、博物館、歴史・民俗資料館学芸員、自治体の民俗文化財担当職員など高度職業人の養成に繋がる教育を目指します。

◆ 文化地理学コース

【文化地理学コースのコンセプト】

文化地理学コースでは、世界の諸地域における人々の生活・文化の諸相を、場所・空間・地域・環境・生態・景観といった地理学的視点を切り口にして、フィールドワークを中心とするさまざまな方法を通して解明し考察することをコースコンセプトとします。

【文化地理学コースの履修モデル】

1 年次: 1 年次には地理学および関連分野における基礎的な知識や考え方を習得する必要があります。フィールド文化領域比較文化研究、文化地理学概論、文化人類学概論、民俗学概論などの概論科目を履修して基礎的な力を養いましょう。文化現象への切り口は多様ですので、あまり特定の分野に限定せず多様な関心を育むことは、文化地理学を学ぶ上で重要なことです。皆さんの関心にしたがって他領域の、さらに他学類(人文・地球)の基礎的な科目もおすすめします。ただあまり欲張って消化不良にならないよう、計画的に履修しましょう。また、学問の基礎力としては外国語、国語、情報処理等の基礎科目が大変重要ですのでこれらにも力を注ぎ、1 年次で履修すべき必修科目は確実に単位取得してください。総合科目においては、地理学が文理総合の性格を持つところから、理学系・工学系の科目にもぜひチャレンジしてください。

2・3 年次: 2 年次ではフィールド文化領域専門導入基礎演習を履修します。ここでは学術文献および地域資料を探し調べる手法を学び、その成果を発表すること、さらにそれを基に地域の様相を現地で見ることを学びます。並行して専門科目を履修してください。当コース開設の講義科目(比較文化地理学 I・II、地域地理学 I・II)、地球学類の人文地理学分野・地誌学分野開設の講義科目(主に当学類の専門科目として指定されたもの)を受講し、地理学の専門知識を学びます。あわせて比較文化地理学演習 I・II に参加し、学術文献を読み、考え、伝える力をつけてください。そして文化地理学実験実習 I・II、文化地理学野外実習 I・II という実習系の授業に参加して地理学的な地域調査手法の基礎を身につけ、フィールドワークの下調べ・課題設定・現地調査・まとめのプロセスを学んでください。地理情報システム(GIS)に関心があれば地球学類の当該科目を履修しましょう。こうした講義・演習・実習を履修し、専門知識とさまざまな視点・手法を学んで行きます。

文化地理学をよりよく学ぶためには、文化、社会、経済、および環境を扱う他の学問分野もあわせて学んでおくことが望まれます。他のコース・領域そして他学類等の科目を積極的に履修し、知識と視点を習得しましょう。文化人類学、民俗学をはじめ、比較宗教学、情報文化学、日本・アジア領域、英米・ヨーロッパ領域などは、文化地理学と関連の強いコース・領域です。他学類では人文学類の歴史学(歴史地理学)、社会学類の社会学・経済学、国際総合学類・社会工学類の都市計画学、生物資源学類の農村社会学・経営学、そして地球学類のさまざまな自然地理学の科目が役立つでしょう。文化地理学は幅広い文化現象を対象にできますので、文学、芸術、スポーツ、情報、そして医療といった分野にも文化地理学に役立つ知見が見出せるでしょう。

特に3年次には、以上に加えて文化地理学研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに参加し、各自の関心に沿って体系的に学術文献を探し、読み、考え、発表し、議論する力を磨いて行きます。あわせて、フィールド文化領域卒業論文基礎演習Ⅰ・Ⅱにおいて教員と相談しながら卒業論文のテーマ、方法、対象地域などを考え、それに必要な文献の収集と読解、フィールドワークの準備を進めます。

2・3年次は留学、語学研修、インターンシップ、就職活動といった学外での学修や活動に関心に応じて取り組む時期です。履修と卒論準備を計画的に進めましょう。

- 4年次： 4年次には文化地理学研究演習Ⅳでさらに学術文献の購読を深めるとともに、卒業論文演習において教員の助言を受けながら個別の調査・フィールドワークを実施し、これまで学んできた知識・手法を総合して、卒業論文を仕上げます。

筑波大学の地理学分野は前身の東京教育大学の地理学教室の伝統を引き継ぎ、日本でも有数の歴史と規模をもつ地理学教室であり、わが国の地理学における学術・教育の拠点として優れた研究業績と有為な人材を供給してきました。ぜひ地理学の海の中に泳ぎだしてください。必ずそこには求めるものが見つかるはずです。

【文化地理学コースの人材育成目標】

文化地理学コースでは、文化研究の一つの手段として地理学的な見方・考え方・スキルを修得し、それらを生かして社会で活躍できる人材を養成することを目標とします。文化地理学では研究対象が身近な地域、遠い国々、そしてボーダーレス化した世界まで、あらゆる場所とスケールに存在します。経済、社会、文化、政治、そして環境までの広範な文化的事象の中に研究課題を自ら設定し、フィールドワークによるオリジナルな観察・聞き取りデータと地図・空中写真、統計、文書などの既存データを集め、地図・図表による可視化を活用しながら分析し、結果を表現する力を養成します。フィールドワークによってコミュニケーション能力が鍛えられ、一方ではGIS(地理情報システム)を含む各種のIT機器・技術をも武器にすることができます。

これまで文化地理学コースからは金融・保険・運輸・通信・観光・マスコミ・不動産等の会社員、国・地方の公務員、あるいは教員として活躍する人材が輩出してきました。生命地球科学研究群(改組前は生命環境科学研究科)、教育学学位プログラム次世代学校教育創成サブプログラム(改組前は教育研究科)をはじめとする大学院に進学して修士や博士の学位を取得し、企業・研究機関・教育機関で専門的人材として活躍する先輩方もおおいいます。特に大学教員としての就職の良さは日本の大学のなかでも屈指であり、OB・OGが全国の国公立大学に在籍しています。地理学者として活躍する道は皆さんにも開かれています。

《 超域文化研究領域 》

表現文化領域

1. 表現文化領域のコンセプト

文学理論・比較文学・文化理論などのテキスト・メディア文化分析を批評的かつ学際的な観点から、また表象文化（美術・映像・音楽など）に関わる文化創造のダイナミズムを思想的かつ実践的な観点から、体系的に学びます。

2. 表現文化領域の履修にあたってのガイド

本領域では、学際的かつ多彩なテーマでの学習と、個々の関心に従って自由に履修科目を組み立てることが可能ですが、できるだけ早く自分の関心の核を決め、それを中心に、履修科目を計画的に組み合わせることを奨励します。領域の教員への相談も歓迎します。

3. 表現文化領域の人材育成目標

さまざまな表現文化に対する知識と理解を深め、文化や社会を分析・考察する能力を身につけることによって、社会の中で柔軟な創造性を発揮する人材の育成を目指します。

* * *

◆ テキスト文化学コース

【テキスト文化学コースのコンセプト】

文学理論や比較文学・文化研究、ディジタル・ヒューマニティーズやエコクリティシズム、ポストコロニアルやジェンダーなどの手法を用いてテキストの生成と多様な実態に目を向け、表現文化を体系的かつ実践的に学びます。

【テキスト文化学コースの履修モデル】

テキスト文化学コースでの学習をめざす学生は、幅広い関心を持っている方が多いでしょう。ですから比較文化学類や学内で提供されているさまざまな科目を自分の関心に応じて組み立てていくことが非常に重要です。履修にあたってすべての学生に気をつけてほしいことは以下の点です。

- ・ まず、表現文化領域の科目を重点的に履修しましょう。
- ・ さまざまな科目の自由な履修が可能とはいえ、完全にバラバラではなくある程度まとまりのある授業編成を組むように気をつけましょう。たとえば、他の領域・コースの科目に関心を持ったら、一つだけではなく、近接する複数の科目を履修する、数年にわたって履修する、など。
- ・ できるだけ早く自分の関心の核を決め、それを中心に、履修科目を計画的に立てましょう。
- ・ 新年度の最初には、各学生が履修科目を組み立てる際の相談に応じる「履修相談日」を設けます。掲示等に注意してください。

一例にすぎませんが、以下に2つのモデルケースを掲げます。

■ 文学・文化理論を用いた多文化テキストの分析を目指す学生の場合

Ⅰ 年次：「表現文化領域比較文化研究」、「テキスト文化学概論」、「文化創造論概論」、「Introduction to

One-Planet Relational Studies in Literature and Culture」,「先端文化学概論」

2 年次:「表現文化領域専門導入基礎演習」,「テキスト文化学研究 I, II」,「比較文学研究」,「文化理論研究」,「テキスト文化学演習 I, II, III, VI」,「文化学データ演習 I」,「文化創造論研究 I, II, III, IV, VI」,「音楽文化論研究 I, II」,「音楽文化論演習 I, II」,「比較文化国際演習 I, II, III, IV, V, VI, VII, VIII」

3 年次:「テキスト文化学研究 III, IV」,「テキスト文化学演習 IV, V, VII」,「比較文学演習 I, II」,「表現文化企画実践演習」,「文化学データ演習 II」,「テキスト文化学研究演習」,「表象芸術論研究 I, II」,「欧米文化論演習 I,II, VI, VII, VIII」,「表現文化領域卒業論文基礎演習 I, II」

4 年次:「テキスト文化学研究演習」,「卒業論文演習」,「卒業論文」

■ 「文学」を学びたい学生の場合

＊ 「文学」は幅が広いので、自分の関心の方向や駆使できる言語等に応じて科目を選んで組み合わせてください。

＊ 年度によって授業内容に変更があることがあるので、シラバスを注意深く読むこと。

＊ 3年次、4年次には卒業論文関連の授業が複数ありますので、すべて必ず受講してください。

1・2 年次:概論 「日本文学概論」,「中国文学概論」,「英語圏文学論 I, II, III」,「ドイツ語圏文学・文化概論」,「フランス語圏文学・文化概論 I」,「テキスト文化学概論」

1・2 年次:専門基礎科目(比較文化研究):「表現文化領域比較文化研究」,「日本・アジア領域比較文化研究」,「英米・ヨーロッパ領域比較文化研究」,「表現文化領域専門導入基礎演習」

2～4 年次:専門科目 ・日本文学コースの全ての科目

・中国文学コースの全ての科目

・英語圏文学・文化コースの多くの科目

・フランス語圏文学・文化コースの多くの科目

・テキスト文化学コースの多くの科目

3 年次:「表現文化領域卒業論文基礎演習 I, II」,「テキスト文化学研究演習」

4 年次:「卒業論文演習」,「卒業論文」

上記以外のコースの専門科目:以下の科目は、文学に触れることがあります。

・小川美登里先生「文化創造論演習 I」など

・山口恵里子先生「先端文化学研究 VII」など

【テキスト文化学コースの人材育成目標】

多言語・多文化にまたがるテキストの読みを通じて現在社会のさまざまな問題を考察する力を養い、複眼的視点から、自由な発想と柔軟な思考をもって物事に対応できる人材の育成を目指します。

◆ 文化創造論コース

【文化創造論コースのコンセプト】

1) 文化創造の現場と連携し、社会との関係性を問いながら、文化創造のダイナミズムを分析することを目指します。

2) 芸術・文化(音楽、絵画、オペラ、公共ホール、映画、エコクリティーク、サブカルチャーなど)について批評的に学ぶことができます。

3) 現代社会の諸問題(権力、差別、マイノリティ、ジェンダー、セクシュアリティ、環境など)について思想的に

学ぶことができます。

【文化創造論コースの履修モデル】

1年次のモデル

- * 「文化創造論概論」
- * 「テキスト文化学概論」
- * 「Introduction to One-Planet Relational Studies in Literature and Culture」
- * 「表現文化領域比較文化研究」

地域や言語により根ざした基本的な知識を得たい場合には、「欧米研究概論」、「文化人類学概論」、「民俗学概論」、「現代思想概論」などをあわせて受講するのもよいでしょう。

2年次以降のモデル

2年次では「表現文化領域専門導入基礎演習」を履修します。

また文化創造論コースの専門科目をひとつとり取ることによって、文化現象を理解するための広汎な知識を身につけることを推奨します。ここではテーマ別にいくつかのモデルケースを紹介します。

1. イメージ・表象文化（絵画、オペラ、公共ホール、映画、エコクリティーク、サブカルチャーなど）を中心とする文化について学問的に研究したい人は、表象文化に関する理論や作品分析についての授業を中心として、表象文化の背景を広く扱う文化研究や、映像とメディアの関連を扱う情報文化コースの授業を補完的に受講するのがよいでしょう。

「文化創造論研究 III, VI」、「文化創造論演習 I, IV」、「表象芸術論研究 I, II」、「表象芸術論演習 I, II」、「テキスト文化学研究 I」、「テキスト文化学演習 I, II, V, VI」、「広告文化論」、「映像文化論」など。

2. 音楽を中心として文化や芸術について学問的に研究したい人は、「音楽文化論研究」や「音楽文化論演習」などの音楽に特化した授業を中心として、音楽創造の背景にある文化現象や地域の歴史、さらには音楽とメディアの関係、音楽と言語、音楽と諸芸術との関係などについてより専門的に学ぶことができるように授業を組み合わせるのがよいでしょう。

「音楽文化論研究 I, II」、「音楽文化論演習 I, II」、「文化創造論演習 I」、「表象芸術論研究 I, II」、「表象芸術論演習 I, II」など。

3. グローバル化する社会とマクロ／ミクロ権力、マイノリティ・差別・公害・戦争のような社会的矛盾など、現代社会や社会思想に関心があり、社会やそこで生きる私たちのあり方について批判的に考えたい人は、現代思想、社会思想、現代社会理論をテーマにした授業を中心に当コースの授業と、テキスト文化学コース、現代思想コースの提供する授業を履修することを勧めます。また学類の枠を越えて学びを深めたい場合、思想に関心がある人は人文学類の哲学主専攻の授業を、現代社会に関心がある人は社会学類、国際総合学類の授業を履修するのもよいでしょう。

「文化創造論研究 I, II, IV, V」、「文化創造論演習 V, VI」、「テキスト文化学研究 III, IV」、「テキスト文化学演習 IV, VII」、「英語圏文学論 III」、「英語圏文学・文化研究 III」、「現代倫理学」、「現代倫理学演習」、人文学類哲学主専攻の授業など

4. 美術館や公共ホール活動のような、芸術・表現活動と社会の関係を実践的に学びたい人は、表象芸術論研究や表象芸術論演習、さらに芸術学群、テキスト文化学コース、文化科学領域等の提供する授業の履修を勧めます。また、美術館やコンサート等の表現活動に触れながら実践的に学ぶ授業の履修を勧めます。

「文化創造論研究 III, V, VI」、「文化創造論演習 I, V, VI」、「音楽文化論研究 II」、「音楽文化論演習

II」、「表象芸術論研究 I, II」、「表象芸術論演習 I, II」、「テキスト文化学研究 I」、「テキスト文化学演習」、芸術専門学群の授業など

3年次以降のモデル

3 年次履修の「表現文化領域卒業論文基礎演習 I, II」や 4 年次履修の「卒業論文演習」で研究発表に参加することで、卒業研究に必要な教養やスキルを身につけることを目指し卒業論文を完成させます。

【文化創造論コースの人材育成目標】

文化・思想・芸術に対する知識を広げ理解力を深めることで、社会と個人との接点を創造的にとらえる能力を養います。また、領域横断的に文化・社会現象を分析する力を身につけることによって、文化を発信し、さまざまな現場において先進的で指導的な役割を果たすことのできる人材の育成を目指します。

◆ One-Planet Relational Studies in Literature and Culture (ワンプラネット文学・文化関係学) コース

【One-Planet Relational Studies in Literature and Culture コースのコンセプト】

This program combines education and research in literature and culture studies (with reference to neighboring fields of philosophy, politics, art, and history) in a global perspective. It focuses on global crises issues such as Global Warming, Aging Society, Pandemic, Refugee and Migration, Gender Equality, Discrimination, Plastic Pollution, Hunger, and analyzes global and local attempts and concepts to counteract and solve these, such as Resiliency, Sustainability, Mindfulness, and Stewardship. The program is based on co-operative learning of Japanese and foreign students in English, and thereby aims to create a realistic environment for future international exchange. Students of this program are highly encouraged to participate in international exchange programs.

【One-Planet Relational Studies in Literature and Culture コースの履修モデル】

■ One-Planet Relational Studies in Literature and Culture コースの科目

- 1 年次 ・Introduction to One-Planet Relational Studies in Literature and Culture」
 ・表現文化領域比較文化研究」
- 2 年次 ・表現文化領域専門導入基礎演習
- 2-4 年次 ・One-Planet Relational Studies in Literature and Culture (lecture) I-III
 ・One-Planet Relational Studies in Literature and Culture (seminar) I-VI
- 3 年次 ・表現文化領域卒業論文基礎演習 I, II
- 4 年次 ・卒業論文演習、卒業論文

■ Classes from other divisions (領域) and areas (コース) :

“One-Planet Relational Studies in Literature and Culture”'s most outstanding feature is its interdisciplinary approach: Students are encouraged to choose their own class combinations according to their own preferred focus points from whatever fields they are interested in: For example, students interested in ethics, can combine it with classes in philosophy and comparative religious studies. Those interested in cultural background and diversity, can combine it with various regional studies programs. Students with research interests in

representation and imagery can support their studies with classes on ethnic diversity, mythology, anthropology, history, and aesthetic and rhetorical analysis, or focus on literature and the arts. It can also be combined with local and regional fieldwork and information and data analysis. English-language (native speaker) classes from Division of Anglo-American and European Studies (英米・ヨーロッパ領域) are highly recommended for those who want to improve and practice their knowledge of English.

■ **Classes from other divisions (領域) and areas (コース) especially recommended :**

1 年次 ・ 専門基礎科目(概論):「文化創造論概論」「テキスト文化学概論」「文化人類学概論」

「英語圏文学論 III」

2 年次 ・ 専門基礎科目(概論):「文化創造論概論」「テキスト文化学概論」「文化人類学概論」

「英語圏文学論 III」

2-4 年次 ・ 専門科目(英米・ヨーロッパ領域):

「英語圏文学・文化研究 IV, V」「ジェンダー研究特講*」

「英語圏文学・文化演習 I*」

*: 比較文化学類長が「人文・文化学群履修細則」別表第 I (比較文化学類) 注3に基づき
表現文化領域の専門科目として指定する科目

・ 専門科目(表現文化領域):「文化理論研究」「文化創造論研究 II」「文化創造論演習 V」

「表現文化領域特論 I, II」「テキスト文化学演習 II」

「文化創造論研究 I, III」

・ 専門科目(思想文化領域):「現代倫理学」「哲学カフェ」

【**One-Planet Relational Studies in Literature and Culture コースの人材育成目標**】

This program aims to not only inform students about urgent issues on our planet and global and local co-operative activities but also to offer them the tools and possibilities to become responsible and active stewards for a sustainable planet. The program also focuses on international understanding and co-operation to enable students to become curious and informed agents in our global world and contribute actively to Japan's future society and culture. It strengthens competence in international communication and global literacy and focuses on solution-oriented creativity and performance. In general, it enhances students' proficiency in English, argumentative strategies, rhetoric and logic, and fosters basic performance enhancing strategies such as time management and efficiency, typical of high-quality Western university education.

文化科学領域

1. 文化科学領域のコンセプト

生命・身体文化、芸術文化、公共空間と私的空間、情報化、メディア、コミュニケーション、ジャーナリズムなどをキーワードに、人間社会の諸問題について複合的な視点から探求します。

2. 文化科学領域の履修にあたってのガイド

履修にあたっては、先端文化学コース・情報文化学コースのそれぞれの履修モデルを参考に、計画的に授業を設計してください。関係教員にもぜひ相談して下さい。いずれのコースでも卒業論文に一同となって取り組むチームワークを重視しています。

3. 文化科学領域の人材育成目標

未知の問題に出会ったときの問題解決能力、チームワーク、企画力、情報編集能力、国内・国外での発信力を備えた人材を養成します。

* * *

◆ 先端文化学コース

【先端文化学コースのコンセプト】

生命や身体との文化との関係、芸術的な感性と文化、公共空間と私的空間の錯綜した関係、文化間の葛藤などについて、複合的な視点から新たな問題領域を切り開き、諸文化の生成やダイナミズムを探究し、問題の具体的な解決をとともに模索します。

【先端文化学コースの履修モデル】

先端文化学コースの授業を四つのモデルを提案します。もちろん複数のモデルを組み合わせて、新しいアイディアを創出するのも面白い。

(例) モデル2と3を参考に「障害者の身体芸術」「エイズと芸術」を研究する、など。

- ・ まず必修の科目は次のようです。1 年次では文化科学領域比較文化研究を、2 年次では文化科学領域専門導入基礎演習 II を、3 年次では文化科学領域卒業論文基礎演習 I, II を、4 年次では卒業論文演習、卒業論文を履修します。
- ・ 2 年次と 4 年次のモデルの注意点は次のようです。
 - ◎ 2 年次: 当コースの授業を広く履修して視野を広くし、身体、生命、芸術文化、諸文化の葛藤・共生の研究について、自分なりの方法論や主題の萌芽を見つける。
 - ◎ 4 年次: 主査・副査の指導の下、自分なりの授業編成を組み立て、コースでの卒業論文ガイダンス、合同演習、中間発表などを通して、他の学生や主査副査以外の教員とも意見を交換しながら卒業論文を練り上げていく。
- ・ また特定の地域の文化の研究がしたい人は、1、2 年次から語学に力を入れ、以後は関係する「日本・アジア領域」「英米・ヨーロッパ領域」の授業も履修し、語学・文化研究の基礎を身につけておくことを強くお勧めします。

1) 〈身体・生命文化学〉履修モデル: 生きて活動する身体を取り巻くさまざまな文化現象を、その思想的・社

会的背景や生命的な活動にまで遡って研究したい人のためのモデル。身体とそれを取り巻く共同体や環境との関係(ファッション、インテリア、建築とエコロジー、都市文化論)、文化ごとに生きられる身体空間の違い、精神の病理と身体の病理、他者のケアや介護の意味の思想的研究(臨床哲学)などの理解が深まる。

◎1 年次:当コースの概論、文化科学領域比較文化研究、フィールド文化領域比較文化研究または思想文化領域比較文化研究など。

◎2 年次:文化科学領域専門導入基礎演習、フィールド文化領域専門導入基礎演習、思想文化領域専門導入基礎演習など。

◎3 年次:当コースの関係授業に加え、思想文化領域(現代倫理学など)、文化人類学・民俗学コースの授業や、人間学類の生命論関係の授業(心理学・心理学史、障害科学など)の授業で問題を深める。文化科学領域卒業論文基礎演習。

2) 〈芸術文化学〉履修モデル:美術史、現代アート、インテリア、建築、演劇、大衆文化などの表象芸術を、たんに表面的な現象としてではなく、文化理論や芸術理論を参照しながら、その原理的な問題にまで遡り、感性とは何か、感動とは何かと問いかけつつ、作品の魅力を存分に味わいつつ研究したい人のためのモデル。

◎1 年次:当コースの概論、文化科学領域比較文化研究、表現文化領域比較文化研究、「芸術」関係の授業など。

◎2 年次:文化科学領域専門導入基礎演習、表現文化領域専門導入演習など。

◎3 年次:当コースの関係授業に加え、テキスト文化学研究・演習、英米・ヨーロッパ領域の文学関係の授業、芸術専門学群(芸術学・美術史コース「パフォーマンス&アーツにみる身体」など)、体育専門学群(舞踊方法論)の授業で感性と理論構築の能力を磨くことができる。文化科学領域卒業論文基礎演習。

3) 〈諸文化の葛藤・共生論〉履修モデル:国家間、国家内の闘争から生まれる文化的問題、子ども、女性、少数民族、「引きこもり」、障害者などいわゆるマイノリティの文化に、それを生きる当事者の視点を考慮したミクロな視点から切り込み、新たな共生や連帯の可能性を探りたい人のためのモデル。

◎1 年次:当コースの概論、文化科学領域比較文化研究、英米・ヨーロッパ領域比較文化研究など。

◎2 年次:文化科学領域専門導入基礎演習、英米・ヨーロッパ領域専門導入基礎演習など。

◎3 年次:当コースの関係授業に加え、英語圏文学・文化コース(フェミニズム論)、欧米研究(欧米文化論演習 VII など)、比較宗教コース(比較宗教論)などの授業、社会学類(移民とエスニシティの社会学)や国際総合学類(文化・社会開発分野)の授業で問題を深める。フィールドワークや情報分析などの方法を使いたい人は「フィールド文化」領域、「情報文化」コースなどで基本的技術を学ぶ。文化科学領域卒業論文基礎演習。

4) 「文化科学領域」横断履修モデル:同じ領域(文化科学領域)の「情報文化学コース」との連携モデル。領域全体の理念を自由に活用して、アクチュアルな「現代文化」を研究したい学生のモデルです。

◎1 年次:当コースの概論、文化科学領域比較文化研究、「情報文化概論」など。

◎2 年次:文化科学領域専門導入基礎演習など。

◎3 年次:当コースの関係授業と並行して、「情報文化学コース」の授業を 3, 4 年次に積極的に履修し、「グローバル化と文化」「情報社会における身体と生命」「メディアの中の芸術やサブカルチャー」「情報社会と文化の葛藤・共生」などについて、人文学と社会科学を横断した思索を模索する。文化科学領域卒業論文基礎演習。

【先端文化学コースの人材育成目標】

先端文化学コースではとくに未知の課題や一見解決できないような課題に出会ったときの、〈問題解決能力〉や〈突破力〉、そしてそれを〈編集〉して具体的にデザインしていく能力を徹底的に鍛えます。とくに学芸員、学際的研究者・批評家、教員、ファッション・デザイン関係企業、新聞社、出版社、編集プロデューサー、福祉・ケアや援助・開発（異文化共生）関係の機関・NGO などにおいて、生産的かつ独自のアイデアを創出・提案・編集できる人材を養成することを目指します当コースの教員には欧米で留学・研究した経験が豊富な人が多いので、協定校を利用した留学、短期留学、奨学金による留学などのアドバイスを行ない、国際的に通用する語学力・発信能力を身につけた人材（海外在住の公的機関、外資系企業、国際学会で発表できる研究者）を養成することを目指します。

◆ 情報文化学コース

【情報文化学コースのコンセプト】

情報文化学コースは、コミュニケーションをキーワードとしながら、メディア、ジャーナリズム、情報化、宣伝・広告、大衆文化といった問題を研究対象に、社会科学的・人文科学的に学習・研究することを目的とします。

【情報文化学コースの履修モデル】

情報文化学コースでは、1 年次の学生のために専門導入科目として文化科学領域比較文化研究、文化科学領域専門導入基礎演習や情報文化概論が用意されています。文化科学領域比較文化研究では情報文化学と先端文化学の観点といった多様な視点から文化事象への研究アプローチについて勉強します。情報文化概論ではメディア研究に関する学説史・都市・新聞・映画・ラジオ・テレビ・ニューメディアなどを対象として比較メディア史的観点から現代メディア社会の成立の過程を理解します。

2 年次には文化科学領域専門導入基礎演習を履修します。また 2 年次以降は広告文化論、記号文化論、コミュニケーション論、メディアコミュニケーション論の講義、情報社会論演習 1-4 やコミュニケーション論演習 1-4 などが履修できます。講義と演習を相互往還的に履修することで、情報文化やメディア社会、メディア利用に関する既存の研究とその課題、現代情報社会の事例について深い理解を得られるように学習します。

3 年次以降は映像文化論などの講義や文化科学領域卒業論文基礎演習 I, II などを受講しつつ、卒業論文執筆のための準備をはじめます。

4 年次は、卒業論文演習において自身の関心に基づいて研究計画書を作成しながら、研究を進め、卒業論文を執筆します。

目標履修年度に基づいたモデル

1 年次	文化科学領域比較文化研究 情報文化概論
2 年次 (もしくは 3 年次)	文化科学領域専門導入基礎演習 I 広告文化論 記号文化論 コミュニケーション論 情報社会論演習 1 情報社会論演習 2 コミュニケーション論演習 1 コミュニケーション論演習 2
3 年次	メディアコミュニケーション論 映像文化論

情報社会論演習 3
情報社会論演習 4
コミュニケーション論演習 3
コミュニケーション論演習 4
文化科学領域卒業論文基礎演習 I
文化科学領域卒業論文基礎演習 II
4 年次 卒業論文演習
卒業論文

【情報文化学コースの人材育成目標】

人材育成目標：メディア、ジャーナリズム、情報化、宣伝・広告、大衆文化の知識と理解力を深めること。チームワークがあり、企画力のある人材を育成することを目標とする。就職先：メディア企業、情報企業、教育職等
進 学 先：メディアや情報社会論を学習できる大学院

思想文化領域

1. 思想文化領域のコンセプト

思想文化領域では現代世界の思想問題を取り上げるとともに、古今東西の宗教思想の探求を通して、人間のあり方に関わる普遍的問題について考察する。他者、公共性、ポストモダンなど現代哲学者が取り組んだテーマを基礎から学ぶとともに、世界の諸宗教の思想、人間と神との関係、宗教と社会など人類共通の問題を勉強し、伝統的でありながら先端的な問題についての自分自身の問いを他者との対話を通して探求していきます。

2. 思想文化領域の履修にあたってのガイド

現代文化領域では、領域が提供する授業で広く基礎を学ぶとともに、各コースの授業を通じて、専門分野の基礎知識を学んでいく履修制度を構築している。領域の授業ではカバーできない点は、他領域・他学類の授業も履修して、学生の関心を補完できるようにしている。2 年次、3 年次での勉強を通じて、学生自身の関心を卒業論文のテーマへと展開できるよう支援している。留学も奨励している。

3. 思想文化領域の人材育成目標

思想文化領域では、自分の考え、感性を大事にするとともに、異なる考え、異なる感性を持つ人とも対話ができるような、現代社会が求める文化的多様性に相応しい人材を育成したいと考えている。難解な哲学書を地道に読み、宗教についての著作を深く読み解く胆力を付け、哲学・宗教学の知の動向を学び、揺れ動く現代世界でも未来を創造するのに貢献できる人材を育成する。

* * *

◆ 現代思想コース

【現代思想コースのコンセプト】

真理、社会、共同体、歴史、個人の生と死、幸福、自由、生命、精神、倫理、比較思想、科学、言語などをキーワードに、様々な思想家のテキストに基づいて現代思想を広く学ぶとともに、演習科目での議論はもちろん、哲学カフェ科目でのディスカッションを通して、自分の力で哲学的に考える力を養います。

【現代思想コースの履修モデル】 -----履修のための基本ガイド-----

1. 授業の三つのカテゴリー

■ 現代思想コースで提供している授業は大きく次の三つのカテゴリーに分けられます。

- ① 思想史(哲学史)に関わるもの
- ② 哲学的・思想的諸問題に関わるもの
- ③ 哲学的テキストを講読するセミナー
- ・ それぞれの目的は、
 - ① 思想史に関する知識を得ること
 - ② 物事を哲学的に掘り下げて考える思考力を養うこと
 - ③ 思想的テキストを深く理解する能力を養うこと
- ・ 専門基礎科目には、思想文化領域比較文化研究、現代思想概論、思想文化領域専門導入基礎演習Ⅰなどがあり、専門科目では、講義は概ね①、演習は②と③の内容を中心とします。

■ コース開設授業を標準履修年度別に列挙すると次のようになります。

*同一科目が複数年度にまたがって表示されている場合もあります。

- | | |
|------|--|
| 1 年次 | 思想文化領域比較文化研究、現代思想概論 |
| 2 年次 | 思想文化領域専門導入基礎演習 I、分析哲学、比較思想研究、日本東洋思想史研究 II、
現代倫理学、哲学カフェ、日本東洋思想史研究演習 II |
| 3 年次 | 比較思想史研究、分析哲学演習、比較思想研究演習、現代倫理学演習、哲学カフェ演習、
日本東洋思想史研究 III、日本東洋思想史研究演習 III、思想文化領域卒業論文基礎演習 I, II |
| 4 年次 | 比較思想史研究演習、現代倫理学演習、哲学カフェ演習、卒業論文演習、卒業論文 |

■ 現代思想コースの学習で大切なのは、1 年生から 3 年生まで三つのカテゴリーの授業をバランスよく取り、三種の知識・能力を自らの内に養い、それを卒論制作に活用することです。このことを意識して履修計画を立ててください。

2. 卒業論文のテーマと準備について

現代思想コースでこれまで扱われてきた卒業論文のテーマは、

- ① 個別の思想家やそのテキストに関するもの
- ② 現代思想で問題となっている様々なテーマに関するもの（例えば「幸福について」「死について」「家族について」など、現代社会やあなた自身の抱える問題）
- ③ 文学作品や芸術作品を哲学的アプローチから扱ったもの

に大別されます。

どんなテーマでも哲学的アプローチから扱うことがこのコースでは可能です。しかしそうした幅広いテーマを卒論で扱うために重要なことが二つあります。

ひとつは教員や他の学生たちとのディスカッションの中で自分の考えを深めていくこと。本コースには共同で思索し対話しながら論文を進めていく卒論ゼミもあります。

もうひとつは、関連する他分野・他学類の授業を履修したり、自ら関連図書を広く読んだりといったあなた自身の準備です。現代思想コースでは次に述べるように、あなたがあなた自身の問題を追求していくためのサポートを積極的に進めています。

3. 「マイカリキュラム」を作ろう -----他分野・他学類の授業の履修-----

現代思想コースは哲学的思考力を養う場であり、そのための多様な素材を手に入れるために他分野・他学類の授業を広く履修することが重要となります。面白そうだなと思う授業を見つけたら、とりあえず領域・学類に関係なく受講してみてください。人文学類の哲学や倫理学のコース、また芸術専門学群の授業など、あなたの関心と重なるものが多くあるかもしれません。可能な範囲でいろいろ受講してみましょう。

その上で、あなたが自分のテーマを深めていくカリキュラムをどうやって作り上げていくのが最も良いか。またどんな本があなたの世界を開いてくれるのか。あなたの卒業論文へと進んでいく上でどのルートが最も生産的で、しかも面白いのか、コースの教員たちがあなたに最も適したルート作りの相談に乗ります。あなたの卒業論文はあなた自身のために書く世界で唯一のものです。それが本当に豊かなものになるように、あなた自身のマイカリキュラムと一緒に作っていきましょう。

【現代思想コースの人材育成目標】

多様な問題を抱える現代社会において、問題を正面からとらえ、実現可能な解決へ向けて同僚・隣人と共に考え、行動することのできる、自立した思考力を持つ人材の育成を目指します。

◆ 比較宗教コース

【比較宗教コースのコンセプト】

宗教は、過去から現在に至るまで、日本を含めた世界各地で、社会的、文化的、歴史的にも非常に大きな役割を果たしており、個人の生き方や家庭生活においても重要なものです。さらに、一部の国々では、宗教は政治や経済とも密接に結びついています。このコースは、信仰の立場からではなく、可能な限り客観性を意識しながら、内在的、共感的あるいは経験科学的な立場から、宗教を人間的・社会的現象として学問的に考えることを目的としています。

よく知られているキリスト教、仏教、イスラーム、神道などについての基礎を学び直すだけではなく、世界の少数民族の宗教などについても学びます。諸宗教伝統の主要な聖典や哲学書などについても取り上げる機会があります。また、現代社会のスピリチュアリティや宗教を取り巻く様々な観点も学びます。それらを通じて、超越者である神や仏と人間の関係、人間と世界についての根源的な問題を人々がどのように考え、政治や経済などとも関わりながら、リアリティのある問題解決の方途をどのように探求したかを学ぶとともに、フィールドワークなどを通じて、今日の諸宗教の変化の諸相を考えたいと思います。

【比較宗教コースの履修モデル】

1. 比較宗教コースで開設されている専門導入科目、概論科目、講義科目、演習科目を中心に、様々な宗教とアプローチに関する基本的な知識を学修します。その中から自分が興味を持つテーマを見つけ、そのテーマについてどのように研究できるかを教員と相談しながら、自分の関心を深めていきます。
(なお、科目名の末尾に付く I, II などや、a, b などは、省きます。以下同様)
「思想文化領域比較文化研究」、「思想文化領域専門導入基礎演習」、「比較宗教概論」、
「比較宗教論」、「比較宗教演習」、「比較宗教実習」
2. 比較宗教学は裾野の広い研究領域ですので、自分の問題意識を深めるために、比較文化学類の他の領域・コースから宗教と関連のある哲学、歴史学、文学、民俗学等の科目の履修を勧めます。また、人文学類で開講されている関連科目の履修も勧めます。
「文化人類学概論」「民俗学概論」(文化人類学コース)
「日本の宗教と文化」(日本研究コース)
「欧米文化論」(欧米研究コース)
「宗教学」「宗教哲学」(人文学類)
3. 宗教は多様な側面をもっているため、他学群の体育系、医学系、芸術系などの科目と連携して、身体的側面(踊り、武道、ヨガなど)、芸術的側面(絵画、音楽、踊り、舞台芸術)また医療的側面(病気と宗教、精神と宗教、治癒、癒しなど)などの分野との繋がりを見出していくこともできます。
「美術史研究」(芸術専門学群)
「武道学」(体育専門学群)
4. フィールドワークを通して、実際の宗教の儀礼、修行、聖地、施設などを見聞、調査をすることも大切です。このコースでは、宗教を中心としたフィールド研究を行います。フィールドワークの方法を中心とした文化人類学、民俗学、文化地理学の授業科目も役に立ちます。
「比較宗教実習」「文化人類学実習」「民俗学実習」

■ 学年ごとの履修モデル

学類	コース	履修年次(最も早い学年を示し、その後の学年でも履修可能)			
		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
比較文化	比較宗教	思想文化領域比較文化研究	思想文化領域専門導入基礎演習	思想文化領域卒業論文基礎演習	卒業論文演習
		比較宗教概論	比較宗教論	比較宗教論	卒業論文
			比較宗教演習	比較宗教演習	
			比較宗教実習	比較宗教実習	
	文化人類学	文化人類学概論	文化人類学研究		
		民俗学概論	民俗学研究		
	欧米研究		欧米文化論		
	日本研究		日本の宗教と文化		
	アジア研究		アジアの民族と文化		
	現代思想	現代思想概論	比較思想研究		
			哲学カフェ		
人文			宗教学		
			宗教哲学		
体育			武道学		
			武道文化論		
芸術			日本美術史		
			西洋美術史		

【比較宗教コースの人材育成目標】

世界の諸宗教に関する豊かな知識と感性を養い、グローバル社会を生き抜き、問題解決に寄与できる人間力を身につける人材を育てます。

付. コンピテンスとその達成度評価

各授業科目のシラバスを KdB から取得すると、その授業科目の学修を通じて身につけることができる能力であるコンピテンスとの関連がカリキュラム・マップにしたがい記載されています。その達成度について、本学では令和 4 年度から学生が自己評価するためのシステムが稼働しますが、当学類では、学年ごとに提出する研究計画案・研究計画書・卒業論文題目決定報告書を記述するさいに各自で評価するように求める予定です。

コンピテンスには、全学で策定されている汎用コンピテンスと、比較文化学類の専門基礎科目・専門科目に付与される専門コンピテンスがあります。それらは下記の通りです。

履修する授業科目を選択するさいには、どのコンピテンスを得ることができるのか、ぜひ参考にしてください。

◆ 汎用コンピテンス(学士課程共通)

コミュニケーション能力	母語や外国語を適切に用いるとともに、各種メディアを利用したプレゼンテーション等を行うコミュニケーション能力
批判的・創造的思考力	一般的・専門的知識の体系的理解をベースに批判的・創造的に思考する能力
データ・情報リテラシー	様々な事象や情報を数量的手法やコンピューター等を用いて適切に解析・処理する能力
広い視野と国際性	自身の専門に留まらず文化・社会と自然・物質に関して幅広く理解し、異文化を理解・尊重する能力
心身の健康と人間性・倫理性	芸術やスポーツへの理解と実践などを通して心と身体の健康を保ち、人間性と倫理性を有する市民としての責任を自覚して実践する能力
協働性・主体性・自律性	チームワークやリーダーシップを通して様々な物事に対処し自己を管理しながら自律的に学び続け行動する能力

◆ 専門コンピテンス(人文・文化学群 比較文化学類)

文化事象の理解力	多様なメディアやフィールドの調査と情報収集を通して、文化に関わる専門的知識を獲得し、複眼的視点から理解する能力
文化的現象の分析力	複雑化する現代の文化状況に対する先鋭な問題意識を養い、それらを論理的に分析し考察する能力
文化的課題への対応力	現代社会に関わる諸問題を理解し、専門知識や方法論を身につけ、課題解決に向け取り組む能力
国際的なコミュニケーション能力	開かれた知と批判的思考力をスキルとして、グローバル化する社会において交渉を実践する能力
国際的な主体性	自国の文化伝統を踏まえた上で、日常化する国際性の中で、多様な文化的環境に主体的・能動的に働きかけ、活動を遂行する能力